



市民の声を市政に反映

杉森ひろゆき

市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行

665号 2017年6月20日

〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8

TEL・Fax : 870-0335

携帯 : 090-5587-7693

Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

教員の長時間労働 ①-B

牛久の小中学校でも

第2回定例会一般質問 Ⅱ

杉森議員は6月7日、第2回定例会で、①小中学校の教員の長時間労働、②民俗資料館の開設、③牛久沼の観光開発、について一般質問した。今号では①—Bを掲載する。

教育にも悪影響

【杉森議員の質問】過労死ラインの長時間労働は、教員の生命と健康を大きく脅かすだけでなく、**教育の質そのものを低下**させ、児童生徒の教育を受ける権利をも脅かすものであります。先生も次々と増える仕事に追われ、生徒としっかり向き合えない、つらい思いをしていると言います

そこで、牛久市における教員の労働実態をお聞きいたします。牛久市の公立小中学校の教員は、実態として、それぞれ平均で平日1日あたり何時間働いているのでしょうか。

正確な実態把握ない

【教育長の答弁】本市において、同じ調査は行っておらず、正確な実態把握はできていないのが現状です。退勤時刻に関する簡易調査の結果からは次のことがわかります。

小学校教員の33%が19時退勤、30%が20時退勤で、学内勤務時間の平均はおよそ11時間です。**中学校教員の29%が21時退勤、26%が20時退勤**で、学内勤務時間の平均はおよそ11時間半となっています。小中学校ともに全国調査とほぼ同じ状況です。

中学教員の7割がライン超え

【杉森議員の質問】時間外労働が過労死ラ

牛久市議会第2回定例会

常任委員会も活性化

決議・意見書を採択

牛久市議会第2回定例会は6月2日に開会し、16日に閉会しました。

今定例会では執行部提案議案は7本と少なく、上位法の改正による字句上の改正が多く、注目されたのは牛久市特別職の常勤のものの給料の特例に関する条例についてで、昨年・本年と続いた不祥事に対する監督責任に基づいて提出されたもの。さらに、農業委員の任命に関する同意については、現職議員1名の任命を不同意としました。

また、議員提案は以下の通り条例案1本と、意見書案1本、決議案1本が上程され、可決・採択されました。

- ・牛久市議会基本条例について
- ・原発事故避難者に対する住宅支援の復活を求める意見書の提出について
- ・保育士の処遇改善を求める決議

今定例会ではさらに、各常任委員会の新人事を踏まえて、閉会中の事務調査・行政調査に関して、活発な議論が行われ、各常任委員会で様々な案件に関する調査が予定されることになりました。

市民の要求を反映する市政にするために、市議会もさらに動き始めています。

インの月80時間を超える教員は、牛久市の公立小中学校でそれぞれ何%ほどでしょうか。

出退勤時刻の管理もない

【教育長の答弁】教員の勤務状況については、出勤簿の捺印によって管理しており、個々

の出退勤時刻の管理がなされていないのが現状です。県との比較ができる平成26年6月の記録になりますが、1ヶ月の平均超過時間は、小学校が県平均52.5対し、市平均60.5時間、中学校が県平均86.2時間に対し、市平均83.3時間という記録が残っています。

本年度実施の簡易聞き取り調査からは、小学校教員の30%、中学校教員の70%が、1ヶ月あたり80時間を超える超過勤務になっています。

労働安全衛生法の遵守を

【杉森議員の質問】労働安全衛生法は、過労死を含む労災職業病を防ぐために、常時50人以上の事業場で安全管理者、50人以下の場合は安全衛生推進者または衛生推進者を選任し、労働者の危険又は健康障害を防止する措置に関する事、労働者の安全又は衛生のための教育の実施に関する事、などの業務を管理させなければならない、と定めています。

さらに常時50人以上の労働者を使用する事業場では、衛生委員会を設け、労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関する事、労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事、などを調査審議させ、事業者に対し意見を述べさせなければならない。そして、衛生委員会の委員は事業の実施を統括管理する者もしくはこれに準じる者の他、衛生管理者、産業医、当該事業場の労働者で衛生に関し経験を有する者によって構成すること、などを定めています。牛久市の小中学校では、教員の労災職業病を防ぐために、どのような対策が講じられているでしょうか。



以前は職場巡視もあったが

【教育委員会次長の答弁】市内各小中学校における労働安全衛生管理体制は、これまですべての学校が職員数50名に満たない職場にあたり、安全委員会及び衛生委員会の設置対象外となっておりましたが、本年度から中根小学校が職員数50名超え、衛生委員会設

聖路加国際病院

長時間労働を抑制するため

土曜外来を削減

聖路加国際病院（東京都中央区）は12日、勤務医の長時間労働を抑制するため、土曜日の外来の診療科目を34から14に削減すると発表した。労働基準監督署の立ち入り調査を受け、改善策として打ち出した。救急や一般内科、小児科など主要科目の外来は続ける。6月から実施する。長時間勤務が問題となっている医師の労働環境改善への取り組みとして注目される。

同病院によると、昨年6月に中央労基署（東京）の立ち入り調査を受け、昨年4～6月の勤務医の残業時間が月平均95時間に達するなど長時間労働が常態化していたことが判明。また、夜間や休日の勤務については、時間外の割増賃金を支払うよう労基署から指摘を受け、約2年間さかのぼり、総額十数億円を支払ったという。

置の必要性が生じているところで、これについては早急に対処していきます。

また、学校現場においては、50名未満の職場で求められる衛生推進者を設けるとともに、教職員が産業医に相談をしたい場合には、市が委託した産業医に相談できる体制をとっております。

過去には市の安全衛生委員会が市職員の職場を対象とした職場巡視を行ったなかで、学校現場も職場巡視を実施してきました。

教員対象の職場巡視なし

【杉森議員の質問】いつごろから職場巡視をしなくなったのでしょうか。

【教育委員会次長の答弁】1995年から2005年までは、隔年で小中学校を選定し、巡視していましたが、市職員の用務員などに対しては、教員に対しては行っていません。2006年以降は、隔年で幼稚園を2014年まで職場巡視していません。

（次号に続く）